

介護助手導入講座 実践事例発表Ⅱ 『ケアパートナーを チームの一員に』

社会福祉法人墨友会

特別養護老人ホームサンヴェール大垣

副施設長 若山有紀

社会福祉法人 墨友会

岐阜県大垣市3施設、愛知県尾張旭市1施設

高齢者福祉サービス事業を行っています。

運営施設

- ・サンヴェール大垣
- ・サンヴェール花水木
- ・サンヴェール三城
- ・サンヴェール尾張旭

基本スローガン

『ご利用者、ご家族の笑顔、職員の笑顔、
地域との連携、堅実な経営』

ご利用者・ご家族が笑顔で安心して生活でき、職員がいきいきと働き
続けられる施設を目指して、取り組みをすすめています。



ケアパートナー受け入れの現状

- ・現在（令和7年11月）
 - ・サンヴェール大垣にて6名のケアパートナーが活躍中（特別養護老人ホーム4名、デイサービス2名）
 - ・3名のケアパートナーがステップアップし
介護職員として活躍中
- ・勤務日数 週4～5日
- ・勤務時間 8：00～13：00
9：00～13：00
9：30～13：30 (デイサービス)
(勤務場所と本人の希望により決定)
- 夕方勤務の方も募集中
- ・年齢 40代～70代

ケアパートナーの導入のきっかけ

・ケアパートナー導入のきっかけ
令和3年度
『ぎふケアパートナー育成推進事業』
の案内



資料：令和3年度『ぎふケアパートナー育成推進事業』の案内チラシ

→ケアパートナーという言葉は初めて聞いたが、以前から介護助手が現場でうまく働けるかどうかについては疑問に感じていた。
しかし、導入できる可能性があるのなら話を聞いてみようとの思いから、介護助手（ケアパートナー）についての検討を始め、説明会に参加した。

当時の介護現場の状況と課題

- 令和元年12月～ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の発生
感染症対策として、清掃や消毒等を頻回に実施
- 令和3年10月頃 ZOOM面会やパーテーション越しの面会から、人数等の制限を行いながら居室での面会を始めた時期
- しばらく居室で面会ができず、担当スタッフがよくわからないことから、以前よりも介護職員との関係性も希薄になっていた。

身体介護以外 の生活支援業 務の例

介護施設で働く介護職員の仕事はとにかく多くあります。
身体介助はもちろん、日常生活支援に関する業務もあります。

- ・週に一回のシーツ交換
- ・居室・トイレの清掃
- ・リビングの整理整頓
- ・洗濯物の片付け、仕分け
- ・食器の洗浄・片付け
- ・食事、飲み物の提供
- ・ご利用者の日常生活物品の準備・片付け

これ以外にもたくさんあります。

生活支援業務 が多く、手が 回らない 業務が滞る弊 害

- ・居室の掃除が行き届かず、ご家族面会時に慌てて対応する事態が発生
- ・洗濯物の仕分けが遅れ、2、3日分が溜まってしまう
→環境整備の不十分さにより、ご家族の施設評価が低下
→整理整頓された清潔な環境は、家族の満足度向上につながる
- ・日常生活支援を中心に行うと、ご利用者と関わる時間が減少する
→食事、入浴、排泄を中心としたケアで手一杯となり、余暇時間の充実が図れず、サービスの質が低下
→介護スタッフのモチベーションの低下

環境整備への対策と質の高い介護の実践の両立が、
ご利用者・ご家族、スタッフの満足度を高める
ケアパートナーの導入により、改善の見込みがある。

ケアパートナー導入により予想されること

予想される「効果」

- ・業務の切り分けにより、介護職員の負担軽減が可能
- ・介護職員がご利用者と向き合える時間の確保
- ・ご利用者、ご家族の満足度向上

介護職員がやりたい業務に集中でき、やりがいを持って働けるための環境づくり

予想される「懸念点」

- ・業務を切り分けることによる、業務の分断
- ・ケアパートナーと介護職員の間に上下関係が生じる可能性

ケアパートナーの定着率低下（やりがいの喪失）につながるのではないか

導入に向けて の事前準備

【懸念点解決のための取り組み】

- ・日常生活支援を共に担う役目を果たすケアパートナーをチームの一員として迎え入れることをフロアリーダーに提案
- ・各フロアのリーダーと共に業務の切り出し作業を実施
- ・ケアパートナーは身体介助を行わないことを明確化
- ・切り出した業務はケアパートナーのみが行うのではなく、介護スタッフと共同で行うことを強調
- ・リーダー会議で繰り返し上記の方針を伝達

→これらの取り組みにより、リーダーの理解が深まり、現場への方針浸透がスムーズに進んだ

ケアパートナーの求人募集

- ・『ぎふケアパートナー育成推進事業』でのマッチングは不成立、チラシでケアパートナーの求人募集をした

→すぐに4名の応募があった

【志望動機】

- ・介護施設で働きたいという思いはあったが、自身の能力に不安があった
- ・「介護助手」という言葉を聞いて、自分にもできるのではないかと感じた

介護施設で働きたい方はいるが、

介護職員として働ける自信がない

→介護施設で働きたい方はいることが確認できた

配置・受け入れ準備

【配置】

- ・配属先がユニット型特養であり、入浴や夜勤を2ユニット単位で実践していることを考慮し、2ユニットに1名のケアパートナーを配置
- ・勤務時間は9時から13時の4時間

【受け入れ体制の整備】

- ・各ユニットでばらばらだった掃除道具を統一し、ケアパートナーが業務を遂行しやすい環境を整えた
- ・入職し、業務に慣れるまでは、介護職員と一緒にケアパートナーの業務を行う
- ・業務スケジュールについては、ケアパートナーと協力しながら考え実践する（具体的な業務については事前に洗い出しをして、全ユニットに周知。）

実際の業務

- 入社3年目 Aさん（8：00～13：00）
- 8：00 出勤、挨拶
食器下膳（摂取量メモ）、食器洗い
ベランダの花の世話
 - 9：00 シーツ交換
• (自身で1週間のスケジュールを決めている)
水分補給後の食器洗い
 - 10：30 トイレ掃除
 - 11：30 食器の片付け、昼食準備、配膳
 - 12：30 下膳、食器洗い
- 隙間時間
- 床掃除（リビング・廊下）
 - 洗濯（干す、片付け、仕分け）
 - シーツや物品の補充
 - 見守り・コミュニケーション
 - 繕い物 等

実際の業務の 様子

チームの一員として、働いて
くださっています。

- ・リビング掃除
- ・洗濯物仕分け・片付け
- ・居室掃除、ベッドメーキング
- ・トイレ掃除
- ・クッキング



ケアパートナーについての意見

・介護職員

導入の時には、何の業務をしてもらうかをあらかじめ決めていたため、スムーズに業務を覚えていただくことができました。

ケアパートナーさんに入つてもらうようになり、いつもきれいな環境で過ごして頂けるようになりました。よく気がついてくださって、みなさん働き者なので、疲れてしまわないか心配な時があります。

ケアパートナーさんは身体介助以外のことを一緒にやってくださいます。身体介助をされないことについて不満に感じたことはなく、感謝しかありません。

今では私たちがケアパートナーさんの邪魔にならないように動いています。

ケアパートナーについての意見

・ケアパートナー

介護スタッフさんは本当に大変です。それなのに、私たちの仕事も一緒にやってくれます。すごく働きやすいです。

優しいスタッフさんばかりなので、自分の親が介護が必要になつたら、この施設でお世話になりたいと思っています。

出来ることは限られていますが、これからも働いていきたいです。

ケアパートナーは色々な業務がありますが、何より利用者様と接することが一番やりがいに感じています。毎日色々な事がありますが、感謝されこちらも嬉しく感じています。

・ケアパートナーから介護職員へのステップアップについて

更に利用者さんに寄り添ったり知識や技術の点でもスキルアップしたいと思いました。

自分にもできるのではないかと実務者研修を受講しました。

介護スタッフとケアパートナーがお互いを信頼し、チームで働いています。

まとめ

当施設では、介護職員が疲弊しているタイミングで、ケアパートナーの導入を行いました。たくさんの業務がある中で、ケアパートナーをチームの一員として受け入れ、一緒に業務を考えていくことは、介護職員の負担になっていたと思います。

けれども、介護職員の理解と協力がなければ、導入がうまくいかず、安定した定着も難しかったと思います。

現場の職員が何を求めているか、どこに困っているか、そんな声に耳を傾け、一緒に考えていくこと、また切り出した業務をケアパートナーに任せてしまうのではなく、同じチームの一員として迎え入れたことが最大の『成功の鍵』だったと確信しています。

これからもたくさんの仲間を迎え、ご利用者、ご家族の生活をチームで一緒に支えていく予定です。

皆様の施設でも、ぜひケアパートナーさんの受け入れについて前向きに検討していただけたらと思います。

ご清聴ありがとうございました。